

熊本地震で被災し、架け直し工事が終了した二俣福良渡。右の橋は釈迦院川に架かる二俣渡＝14日、美里町



二俣福良渡から見える二俣渡のハート形＝15日

熊本地震で被災した美里町小筵の石橋「二俣福良渡」の復旧工事が10月末に終了した。石橋を解体して現地に架け直す全国的にも珍しい工事。町は17日に最終検査をした上で、18日から供用を再開する予定。

津留川に架かる同橋（1830年架設）と、釈迦院川に架かる「二俣渡」（1829年架設）はし字形に連なる「兄弟橋」。10～2月の正午前の約30分間は二俣渡に差し込む日光が水面に反射してハート形に見える。「恋人の聖地」として

♥の聖地 18日復活 美里町の二俣橋、供用へ

観光客や写真愛好家に人気がある。

地震では二俣福良渡の右岸側にある壁石が崩落。アーチ部分にひずみも見つかったため、町は今年1月から復旧工事に着手していた。

同橋は長さ27㍍、幅約3㍍で歩道専用。工事では石橋を支える鉄製の「支保工」を設置して橋をすべて解体し、アーチを構成する輪石を積み直した。5月下旬に支保工を撤去した後は足場を組み、壁石や高欄などを仕上げた。

橋を構成する石材は約1

1000個で、このうち約400個は地震後に割れたり、流失したりしたため新たに購入した。工事費は1億4854万円。

石工棟梁として工事に関わった尾上建設（山都町）の荒木大人さん（34）は「手探りの工事で期間も長く大変だったが、無事に復旧できて良かった。職人としてレベルアップもできた」と安どの表情を浮かべる。

町建設課は「架け直すことで耐震性は増した。供用開始後は多くの観光客に足を運んでもらいたい」と話している。（田中祥三）